

令和8年度 アクションに対する評価指標

評価方法

- ・評価は5段階とし、●のいずれかを満たした場合に、その評価に達成したこととする。
※ただし、「・」は「かつ」を意味し、上にある●を満たす条件とする。
- ・特に記述がない場合は、概ね 大きく上回った：＋5％以上、上回った：＋0％以上、同程度：0％～－5％
下回った：－5％以下 大きく下回った：－10％以下 とする。

基本方針Ⅱ たくましく自立して生きる力を育てる学校教育の充実

アクションプラン Ⅱ①-1	生きる力の基盤を育む 加西 BASE 確かな学力の育成
目 標	リーディングスキルトレーニングによる読解力の育成、標準学力調査による学習課題の確認、各学校独自の授業研究による授業改善など、具体的な実践を通して確かな学力の育成を目指します。
評価5	●全国学力・学習状況調査において、受検した教科すべてで、市全体の平均点が全国平均点を上回った。 ●学力到達度調査における学年ごとの評価スコアについて、すべての学年で前年よりも上回った。
評価4	●全国学力・学習状況調査において、受検した教科の6割以上で、市全体の平均点が全国平均点を上回った。 ●学力到達度調査における学年ごとの評価スコアについて、6割以上の学年で前年よりも上回った。
評価3	●全国学力・学習状況調査において、受検した教科のすべてで、市全体の平均点が全国平均点と同程度であった。 ●学力到達度調査における学年ごとの評価スコアについて、3割以上の学年で前年と同程度であった。

評価 2	●全国学力・学習状況調査において、受検した教科の一部で全国平均点を下回った。 ●学力到達度調査における学年ごとの評価スコアについて、全学年で前年よりも下回った。
評価 1	●全国学力・学習状況調査において、受検した教科の半数以上が全国平均点を下回った。 ●学力到達度調査における学年ごとの評価スコアについて、全学年で前年よりも下回り、かつ、大きく下回った学年が複数あった。

アクションプラン Ⅱ①-2	生きる力の基盤を育む 加西 BASE 豊かな心の育成といじめ対応の徹底
目 標	特別活動や道徳教育などを通して、郷土への愛着、豊かな情操、規範意識、人権感覚、人を思いやる心などの豊かな心を育てます。 また、いじめのない温かい学校・学級づくりに努めるとともに、「いじめ見逃し 0」を徹底し、あらゆるいじめ事象に対して、教職員が迅速に関わり、保護者と一緒にいじめの解消を目指します。
評価 5	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく上回った。 ●小中学校において暴力行為の千人当たりの発生件数が 10 件未満であった。 ・いじめ重大事態がなかった。
評価 4	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を上回った。 ●小中学校において暴力行為の千人当たりの発生件数が 30 件未満であった。 ・いじめ重大事態がなかった。
評価 3	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均と同程度であった。 ●小中学校において暴力行為の千人当たりの発生件数が 40 件未満であった。 ・いじめ重大事態がなかった。

評価 2	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を下回った。 ●小中学校において暴力行為の千人当たりの発生件数が 50 件未満あった。 ・いじめ重大事態がなかった。
評価 1	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく下回った。 ●いじめ重大事態の発生があった。
該当項目※「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」等	

アクションプラン Ⅱ①-3	生きる力の基盤を育む 加西 BASE 健やかな体の育成と体力の増進および食育の推進
目 標	授業・特別活動等を通して、児童生徒の基本的な生活習慣や運動習慣を育成します。また、体力・運動能力、運動習慣等に関する調査の結果をもとに体育の授業等での指導を工夫します。さらに学校給食を活用した食育を推進します。
評価 5	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく上回った。 ・給食の残食率が前年度よりも 5 %以上減少した。 ●体力・運動能力に関する調査の結果、8 割以上の種目で全国平均を上回った。
評価 4	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を上回った。 ・給食の残食率が前年度よりも減少した。 ●体力・運動能力に関する調査の結果、6 割以上の種目で全国平均を上回った。
評価 3	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均と同程度であった。 ・給食の残食率が前年と同程度であった。 ●体力・運動能力に関する調査の結果、4 割以上の種目で全国平均と同程度か上回った。

評価 2	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を下回った。 ・給食の残食率が前年よりも増えた。 ●体力・運動能力に関する調査の結果、6割以上の種目で全国平均を下回った。
評価 1	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく下回った。 ・給食の残食率が前年よりも10%以上増えた。 ●体力・運動能力に関する調査の結果、全国平均を上回った種目がなかった。
該当項目※「朝食を毎日食べてますか」「毎日同じぐらいの時間に寝ていますか」等	

アクションプラン II①-4	生きる力の基盤を育む 加西 BASE 特別支援教育の充実
目 標	個別最適な支援を継続的に実施するための体制を充実させるとともに、子供たちの社会的自立を見据えて、科学的な知見に基づく教育支援とトレーニングを取り入れます。また、特別支援教育アドバイザーが学校を訪問し、現場で適切な対応を指導します。 さらに、発達に関する教育相談を充実させ、子供の発達に応じた支援を受けることができる体制をつくります。
評価 5	●特別支援教育に関する教員研修を年間7回以上実施した。 ・特別支援教育支援員と発達相談を行う職員を増員し、要請のあった学校すべてに派遣し対応した。 ●特別支援学校・特別支援学級・通級指導対象の保護者アンケートによる満足度が80%以上
評価 4	●特別支援教育に関する教員研修を年間5回以上実施した。 ・特別支援教育支援員と発達相談を行う職員を、子供の状況に応じて派遣し対応した。 ●特別支援学校・特別支援学級・通級指導対象の保護者アンケートによる満足度が70%以上

評価 3	●特別支援教育に関する教員研修を年間3回以上実施した。 ・特別支援教育支援員と発達相談を行う職員を、前年度程度派遣し対応した。 ●特別支援学校・特別支援学級・通級指導対象の保護者アンケートによる満足度が60%以上
評価 2	●特別支援教育に関する教員研修を年間3回未満しか実施しなかった。 ・特別支援教育支援員と発達相談を行う職員を、予定の半数程度しか派遣しなかった。 ●特別支援学校・特別支援学級・通級指導対象の保護者アンケートによる満足度が60%未満
評価 1	●特別支援教育に関する教員研修を実施しなかった。 ・特別支援教育支援員と発達相談を行う職員の派遣要請をしなかった。 ●特別支援学校・特別支援学級・通級指導対象の保護者アンケートによる満足度が50%未満

アクションプラン Ⅱ①-5	生きる力の基盤を育む 加西 BASE 不登校対策の推進
目 標	不登校児童生徒に対して、ふれあいホーム、校内フリースクール、サポートルームを設置し、支援員を配置して丁寧に対応します。 さらに、子供たちにとって心理的に安全で居場所がある学校風土づくりや、子供を丁寧に見守り、子供の心の変化をとらえて教員がいち早くフォローできる体制づくりを行います。
評価 5	●ふれあいホーム、校内フリースクールに加え、すべての小学校にサポートルームを設置し、支援員を配置した。 ・科学的なツールによる見守り体制をすべての学校に整備した。 ●不登校児童生徒が市全体で5%以上減少した。
評価 4	●ふれあいホーム、校内フリースクール、サポートルームを設置し、支援員を配置した。 ・科学的なツールによる見守り体制を5割以上の学校に整備した。 ●不登校児童生徒が市全体で減少した。

評価 3	●ふれあいホーム、校内フリースクール、サポートルームを設置し、支援員を配置した。 ・科学的なツールによる見守り体制を学校に整備した。 ●不登校児童生徒が市全体で前年度と同数程度であった。
評価 2	●ふれあいホーム、校内フリースクール、サポートルームを設置したが、支援員を予定通り配置しなかった。 ・科学的なツールによる見守り体制を整備しなかった。 ●不登校児童生徒が市全体で 5 % 以上増えた。
評価 1	●ふれあいホーム、校内フリースクール、サポートルームを設置したが、支援員を配置しなかった。 ●不登校児童生徒が市全体で 1 0 % 以上増えた。

アクションプラン Ⅱ②	探究心と非認知能力を高める 加西 STEAM
目 標	探究的な学びや体験活動を仲間と協力して乗り越えることで探究心や非認知能力を育てます。 そのために、総合的な学習の時間や校外での体験活動による探究的な学び、戦争遺産の s o r a かさいや自然遺産のあびき湿原の見学、市内の科学技術産業、農業事業者との出会い、世界的指揮者西本智実氏による音楽体験などを通して、本物と出会い感動し心が動く機会を多くつくります。
評価 5	●探究的な学びや体験活動を行った。 ・s o r a かさいやあびき湿原等、市内の施設・自然・産業の見学・体験をすべての小学校で行った。 ・世界的指揮者西本智実氏による音楽体験をすべての小学校で行った。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※に対する回答の市全体のスコアの平均が全国平均を大きく上回った。
評価 4	●探究的な学びや体験活動を行った。 ・s o r a かさいやあびき湿原等、市内の施設・自然・産業の見学・体験を半数以上の小学校で行った。 ・世界的指揮者西本智実氏による音楽体験を半数以上の小学校で行った。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※に対する回答の市全体のスコアの平均が全国平均を上回った。

評価 3	●探究的な学びや体験活動を行った。 ・s o r a かさいやあびき湿原等、市内の施設・自然・産業の見学・体験を小学校で行った。 ・世界的指揮者西本智実氏による音楽体験を小学校で行った。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※に対する回答の市全体のスコアの平均が全国平均と同程度であった。
評価 2	●探究的な学びや体験活動を行った。 ・施設・自然・産業の見学・体験か音楽体験のどちらか一方しか実施しなかった。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※に対する回答の市全体のスコアの平均が全国平均を下回った。
評価 1	●探究的な学びや体験活動を実施しなかった。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※に対する回答の市全体のスコアの平均が全国平均を大きく下回った。
該当項目※「自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」等	

アクションプラン Ⅱ③	語学力を高め国際理解を深める 加西 GLOBAL
目 標	小中一貫した学習によって英語力を高めます。そのために、小学校にジョリーフォニックスを導入し、英語への意欲を高め、小学校から中学校へ滑らかに学習を移行します。さらに、英語に集中的に触れるイングリッシュミーツや英検受験支援などを推進します。 国際理解を深める取組として、オーストラリアへの短期留学研修、現地校とのオンライン交流など、様々な交流機会をつくります。
評価 5	●小学校から中学校へ滑らかに学習を移行するための研究を、小中学校の教員が連携して実施した。 ・英語に集中的にふれる体験を実施し、英検受験の支援を行った。 ・オーストラリアの学校とのオンラインでの交流を 2 校以上の中学校で行った。 ●学習到達度調査における市内中学生の英語の成績が前年度を大きく上回った。

評価 4	●小学校から中学校へ滑らかに学習を移行するための研究を、小中学校の教員が連携して実施した。 ・英語に集中的にふれる体験を実施し、英検受験の支援を行った。 ・オーストラリアの学校とのオンラインでの交流を行った。 ●学習到達度調査における市内中学生の英語の成績が前年度を上回った。
評価 3	●小学校から中学校へ滑らかに学習を移行するための研究を実施した。 ・英語に集中的にふれる体験を実施し、英検受験の支援を行った。 ●学習到達度調査における市内中学生の英語の成績が前年度と同程度であった。
評価 2	●小学校から中学校へ滑らかに学習を移行するための研究を実施した。 ・英語に集中的にふれる体験か英検受験支援どちらか一方を実施した。 ●学習到達度調査における市内中学生の英語の成績が前年度を下回った。
評価 1	●小学校から中学校へ滑らかに学習を移行するための研究を実施しなかった。 ●学習到達度調査における市内中学生の英語の成績が前年度を大きく下回った。

アクションプラン Ⅱ④	個別最適化と業務改善を図る デジタル技術の有効活用
目 標	電子黒板、クロームブックなどの ICT 機器を有効に活用して学習効果の向上を図ります。 また、教職員の服務管理や情報共有の緊密化と業務の効率化と改善を図るために、校務支援システムや学校徴収金システムを導入します。
評価 5	●ICT 機器を有効に活用して学習効果の向上を図った。 ・すべての学校に学校徴収金システムを導入した。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく上回った。
評価 4	●ICT 機器を有効に活用して学習効果の向上を図った。 ・半数以上の学校に学校徴収金システムを導入した。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を上回った。

評価 3	●ICT 機器を有効に活用して学習効果の向上を図った。 ・学校に学校徴収金システムを導入した。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均と同程度であった。
評価 2	●ICT 機器を有効に活用して学習効果の向上を図らなかった。 ・学校に学校徴収金システムを導入しなかった。 ●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を下回った。
評価 1	●全国学力・学習状況調査における該当項目※のスコアの平均が、全国平均を大きく下回った。
該当項目※「あなたは PC などの ICT 機器を使ってプレゼンテーションなどを作ることができますか」等	

アクションプラン Ⅱ⑤	教育の資質・能力を高める 研修と OJT の充実
目 標	学力向上、生徒指導、特別支援教育、不登校支援など、教育現場において教職員に求められる多様な資質・能力の向上を目指し、幅広いテーマで研修を実施します。あわせて、教職員がそれぞれの職場で成長できるよう OJT を意識した学校組織や環境づくりを推進します。
評価 5	●多様な資質・能力の向上を目指す研修講座を実施した。 ・研修講座において資質向上に有効であったと回答した受講者が 8 割以上。
評価 4	●多様な資質・能力の向上を目指す研修講座を実施した。 ・研修講座において資質向上に有効であったと回答した受講者が 6 割以上。
評価 3	●多様な資質・能力の向上を目指す研修講座を実施した。 ・研修講座において資質向上に有効であったと回答した受講者が 5 割程度。
評価 2	●多様な資質・能力の向上を目指す研修講座を実施した。 ・研修講座において資質向上に有効であったと回答した受講者が 4 割未満。
評価 1	●多様な資質・能力の向上を目指す研修講座を実施しなかった。

アクションプラン Ⅱ⑥-1	多くの出会い・豊かな人間関係・新しい学習環境で学ぶ 学校再編事業 学校再編計画に沿った学校の統合と校舎の建設・整備
目 標	子供たちが豊かな人間関係の中で成長できるよう、学校再編計画にしたがって学校再編を進めます。統合した泉小学校においては、教職員を手厚く配置し、子供たちの不安や戸惑いに教員が丁寧に対応できる体制をつくります。 また、善防・加西・泉の3中学校の統合中学校の建設および、賀茂・下里小学校の統合小学校の整備を進めます。いずれも令和10年の開校を目指します。
評価5	●泉小学校において教員及びスクールサポーターを本来の定数を超えて手厚く配置した。 ・子供の変化を敏感に察知するための科学的な見守りツールを導入した。 ●統合中学校の校舎の建築工事及び統合小学校の整備を予定より大幅に早く進めた。
評価4	●泉小学校において教員及びスクールサポーターを本来の定数を超えて手厚く配置した。 ・子供の変化を敏感に察知するための科学的な見守りツールの導入を検討した。 ●統合中学校の校舎の建築工事及び統合小学校の整備を予定より早く進めた。
評価3	●泉小学校において教員及びスクールサポーターを本来の定数通り配置した。 ●統合中学校の校舎の建築工事および統合小学校の整備を予定通り進めた。
評価2	●泉小学校において教員及びスクールサポーターを本来の定数より少なく配置した。 ●統合中学校の校舎の建築工事および統合小学校の整備が予定より遅れた。
評価1	●泉小学校において教員及びスクールサポーターを本来の定数より大幅に少なく配置した。 ●統合中学校の校舎の建築工事および統合小学校の整備が大幅に遅れた。

アクションプラン Ⅱ⑥-2	多くの出会い・豊かな人間関係・新しい学習環境で学ぶ 学校再編事業 スクールバスの運行
目 標	遠距離通学における安全性確保のため、統合した泉小学校において、集合場所から2 km以上の児童を対象にスクールバスを運行します。
評価 5	●無事故・無違反で安全に運行できた。 ●乗降確認システムを導入し、出欠等の確認が適切にできた。 ・学校の教育活動に支障がなかった。
評価 4	●無事故で安全に運行できた。 ●乗降確認システムを導入し、出欠等の確認が適切にできた。 ・学校の教育活動に大きな支障がなかった。
評価 3	●安全に運行できた。 ●乗降確認システムを導入し、出欠等の確認ができた。
評価 2	●安全に運行できず、子供が怪我をする事象が起こった。 ●乗降確認システムを導入したが、出欠等の確認ができなかった。
評価 1	●安全に運行できず、子供が怪我をする事象が何度も起こった。

アクションプラン Ⅱ⑦	熱中症を予防する 夏季スクールバスの運行
目 標	通学時の熱中症予防のために、市内すべてで集合場所から2 km以上の児童を対象に夏季スクールバスを運行します。対象とならない児童については徒歩通学に対応した熱中症対策を実施します。
評価 5	●市内全域で集合場所から2 km以上の児童全員に対して夏季スクールバスを運行した。 ・熱中症対策支援を徒歩通学児童全員に行った。

評価 4	●市内全域で集合場所から 2 k m以上の児童の一部に対して夏季スクールバスを運行した。 ・熱中症対策支援を徒歩通学児童全員に行った。
評価 3	●市内の一部地域で集合場所から 2 k m以上の児童全員に対して夏季スクールバスを運行した。 ・熱中症対策支援を徒歩通学児童の一部に行った。
評価 2	●市内の一部地域で集合場所から 2 k m以上の児童の一部に対して夏季スクールバスを運行した。 ・熱中症対策支援を徒歩通学児童に行わなかった。
評価 1	●市内全域で集合場所から 2 k m以上の児童に対して夏季スクールバスを運行しなかった。

アクションプラン II⑧	熱中症リスクを軽減する 体育館の空調整備
目 標	運動中の熱中症リスクを軽減するため、市内すべての小中学校の体育館に空調設備を整備しています。令和 8 年に中学校体育館の空調を整備し、令和 9 年以降に小学校体育館の空調を整備します。
評価 5	●市内のすべての中学校の体育館に空調を設置し、夏季から使用した。 ・想定温度に到達するのに 30 分程度かかった。 ●令和 9 年以降の設置計画を策定し、工事等を発注する準備が終了した。
評価 4	●市内のすべての中学校の体育館に空調を設置し、夏季から使用した。 ・想定温度に到達するのに 1 時間程度かかった。 ●令和 9 年以降の設置計画を策定し、計画通り設置できるよう工事等の準備をした。
評価 3	●市内のすべての中学校の体育館に空調を設置し、夏季から使用した。 ・冷房、暖房のいずれも想定温度に到達した。 ●令和 9 年以降の設置計画を策定した。
評価 2	●市内のすべての中学校の体育館に空調を設置したが、夏季から使用できなかった。 ●令和 9 年以降の設置計画を策定しなかった。

評価 1	●市内のすべての中学校の体育館に空調の設置が終わらなかった。
------	--------------------------------

アクションプラン Ⅱ⑨	地域の教育力を生かす 部活動の地域展開
目 標	令和 10 年度の夏に部活動を地域に展開する計画です。部活動の教育的意義を継承することを大目標とし、現在活動している部活の受け皿を整備できるよう、地域と協力してスムーズな地域展開を目指します。
評価 5	●部活動地域展開に関する基本計画を策定・公表し、基本的な考え方と令和 10 年までのロードマップを示した。 ・合同チーム、地域人材の活用、地域クラブチームへの移行等において、ロードマップ以上に達成できた。
評価 4	●部活動地域展開に関する基本計画を策定・公表し、基本的な考え方と令和 10 年までのロードマップを示した。 ・合同チーム、地域人材の活用、地域クラブチームへの移行等において、ロードマップを達成できた。
評価 3	●部活動地域展開に関する基本計画を策定・公表し、基本的な考え方と令和 10 年までのロードマップを示した。 ・合同チーム、地域人材の活用、地域クラブチームへの移行等において、ロードマップの 8 割程度達成できた。
評価 2	●部活動地域展開に関する基本計画を策定・公表し、基本的な考え方と令和 10 年までのロードマップを示した。 ・ロードマップの半分程度しか達成できなかった。
評価 1	●部活動地域展開に関する基本計画を策定・公表し、基本的な考え方と令和 10 年までのロードマップを示した。 ・ロードマップを達成できなかった。

アクションプラン Ⅱ⑩	みんなで協力して育てる コミュニティ・スクール
目 標	学校・保護者・地域がそれぞれの強みを生かして協力して子供を育てることができるコミュニティ・スクールを目指し、その核となる学校運営協議会の充実を図ります。
評価 5	●学校運営協議会の会議をすべての学校で 4 回以上開催した。 ・学校運営協議会の趣旨等を理解するための研修会を年間 3 回以上実施した。

評価 4	●学校運営協議会の会議をすべての学校で3回以上開催した。 ・学校運営協議会の趣旨等を理解するための研修会を年間2回以上実施した。
評価 3	●学校運営協議会の会議を半数の学校で3回以上開催した。 ・学校運営協議会の趣旨等を理解するための研修会を実施した。
評価 2	●学校運営協議会の会議を半数の学校しか開催しなかった。
評価 1	●学校運営協議会の会議を開催しなかった。